



Title	京都府福知山市方言における命令表現
Author(s)	福居, 亜耶
Citation	阪大社会言語学研究ノート. 2014, 12, p. 51-70
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/36121">https://doi.org/10.18910/36121</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 京都府福知山市方言における命令表現

福居 亜耶

【キーワード】 命令表現、自然談話、ナル系命令、発話機能

### 【要旨】

本稿では、筆者の内省と自然談話での使用例をもとに京都府福知山市方言における命令表現について記述を行い、以下のことを指摘した。

- (a) 命令表現として主に、命令形命令、連用形命令、テ形命令、ナル系命令（ナイナ形命令、ナン形命令、ナ形命令）が用いられる。
- (b) 《命令》の発話機能においては、命令形命令、連用形命令、ナイナ形命令、ナ形命令が用いられる。命令形命令、ナイナ形命令は緊急性が高い場合、または、〈違反矯正〉や〈非難〉の場面で用いられる。連用形命令とナ形命令はやややさしいニュアンスとなる。
- (c) 《依頼》の発話機能においては、もっぱらテ形命令が用いられる。
- (d) 《聞き手利益命令》の発話機能においては、命令形命令、連用形命令、ナ形命令が用いられる。命令形命令と連用形命令は単にその行為の実行を要求しているが、ナ形命令が用いられる場面は〈確認的指示〉のニュアンスが強い。
- (e) 《勧め》の発話機能においては、連用形命令、ナイナ形命令、ナン形命令が用いられる。ナイナ形命令は特に《勧め》が断られることが考えにくい場面で用いられる。また、連用形命令とナン形命令が用いられる場面を比べると、連用形命令の方が《勧め》のうちでは緊急性が高い。

### 1. はじめに

命令表現<sup>1)</sup>は、行為の実行を聞き手に求める表現である「はたらきかけ」のモダリティのひとつである(高木 2009)。京都府北部に位置する福知山市においては、命令表現に相当する形式として主に、動詞の活用形を用いた命令形命令、連用形命令、テ形命令と、尊敬の助動詞ナルに由来する文末詞「ナイナ」「ナン」「ナ」を使用するナル系命令<sup>2)</sup>が用いられている。(1)～(3)は動詞の活用形を用いた命令表現、(4)～(6)はナル系命令の例文である。以下、本稿の例文では、方言形の命令表現をカタカナで示す。また、非文には\*を、運用的に不適切な例文には#を、不自然な例文には?をつける。

- (1) 早よ行ケ。 [命令形命令]
- (2) 早よ行き。 [連用形命令]
- (3) 早よ行ッテ。 [テ形命令]

1) 本稿で取り上げる「命令表現」とは、発話機能として《命令》《依頼》《勧め》《聞き手利益命令》をもつ形式を指す。詳しくは2.4節で述べる。

2) 「ナル系命令」は筆者の造語である。

- (4) 早よ行キナイナ。 [ナル系命令／ナイナ形]  
 (5) 早よ行キナン。 [ナル系命令／ナン形]  
 (6) 早よ行キナ。 [ナル系命令／ナ形]

ナル系命令の文末詞「ナイナ」「ナン」「ナ」は尊敬の助動詞ナルに由来するが、現在は尊敬の助動詞ナルのもともとの待遇的意味は意識されずに用いられている。本稿では、福知山市方言における以上6形式の命令表現の記述を行う。

以下、本稿では、2節で先行研究と分析の枠組みについて述べ、3節で調査・記述方法について説明する。4節で命令表現各形式の形態的特徴について記述し、5節では命令表現形式の使用範囲について記述する。そして、6節では発話機能ごとに各形式の違いを述べ、最後に7節でまとめを述べる。

## 2. 先行研究と分析の枠組み

本節では先行研究をまとめたうえで、本稿での分析の枠組みを示す。2.1節で福知山市近辺における命令表現に関する先行研究をまとめ、2.2節では特に、福知山市方言における命令表現に特徴的なナル系命令についての先行研究をまとめる。2.3節で先行研究全体のまとめを行ったのち、2.4節で本稿での分析の枠組みを示す。

### 2.1. 福知山市近辺の命令表現に関する先行研究

京都府内の方言については、おもに京都市方言の先行研究が数多くある。また、京都府全域の方言を概観したもの（奥村 1962 など）や、京都府内の他の地域とは際立って異なる特徴を持つ丹後地域における方言の研究もある程度は存在する。しかし、福知山市を含む京都府丹波地域における方言の記述はほとんど行われておらず、そのため、福知山市方言の命令表現について詳しく論じられたものは管見の限り見当たらない。京都府方言の辞典・辞書等に命令表現に関する各項目がある程度である（中井 2002、堀井 2006 など）。

以下、福知山市および近隣地域（京都府・兵庫県をまたぐ丹波地方）における命令表現に関する指摘を引用する。

- (7) その他、ヨンデミナ、ヨミナ・ヨミナイナ・ヨミヤ [筆者注：順にV+V+ナ、V+ナ、V+ナル+ナ、V+ヤ] 等の形も、命令勧誘の意を表すが、男性にも用いられ、また、山城・丹波にかなり広く使用される。（奥村 1962:116）
- (8) 命令性の強い方から順に並べると、「トレ」「ヤ」「ナイナ」「ミナ」「ナ」「テー」がある。「行ットレ」、「離セヤ」「立ってミナ」、「言いナ」、「行ッテー」 [筆者注：北東部に隣接する舞鶴市宇杉山の方言について] （京都府教育委員会 1987:125）
- (9) ところで、篠山 [筆者注：旧丹波国、現在の兵庫県] では、「見ナハレ」「見ナハイ」のように、命令形の語尾に「～レ」「～イ」の2形が認められる。[中略] 当域に連なる摂津、播磨側には「ナハレ」が一般的であり、京都丹波側には「ナハイ」が一般的である。（神部 2003:64）

上記の記述で注目すべきは、ナイナとナという命令表現である。命令形命令、連用形命令、テ形命令は全国各地でみられる命令表現であるが、ナイナという形はあまり見られない。ま

た、命令表現の末尾にナがついたものが目立つ。これらはナル系命令というものであり、ナル系命令は福知山市方言の命令表現において特徴的なものである。続く 2.2 節でナル系命令についての先行研究を詳しくまとめる。

## 2.2. ナル系命令について

### 2.2.1. 尊敬の助動詞ナルについて

奥村（1962:101）は「尊敬の助動詞ナルは代表的な丹後方言であり、丹後一帯に広く用いられる」と述べている。中井（2002:376）と堀井（2006:201）によると、丹後地方においては現在も尊敬の助動詞ナルが使用されているという。以下の表 1 に、堀井（2006）の記述もとにナルの活用をまとめる。

表 1 尊敬の助動詞ナルの活用（堀井 2006 の記述をもとに筆者作成）

	否定	言い切り	過去	命令
ナル	ナレへん	ナル	ナった	ナリヤー
「来る」+ナル	来ナレへん	来ナル	来ナった	来ナリヤー

ただし、丹後地方より南に位置する福知山市方言においてはテヤ敬語<sup>3)</sup>が大きな勢力を持っているため、尊敬をあらわす待遇表現としてのナルは使用されていない。

### 2.2.2. 丹波地域周辺のナル系命令について

藤原（1978）は近畿地方の「ナサル」表現法に関連して、以下のように述べている。

(10) 京都府下では、北方、丹後・奥丹波で、「(ン)サル」ことばもいくらかは見いだされるが、「～ナル」が注目され（連用形「ナッ」、終止形「ナル」、命令形「ナレ、ナイ」がよくおこなわれており）、命令形の「ナー」「ナーン」がことに注目される。

キナーン。おいで。

は、奥丹波の一例である。（丹波山城に、「ナイ」形もいくらか認められる。）

（藤原 1978:415-416）

また、神部（2003）は兵庫丹波地域の尊敬法のひとつとしてナルをとりあげ、ナハルからナル（naharu>naaru>naru）への変化を指摘している。また、その地域で中年女性によく聞かれるネーはナルの命令形であり、ネーの原型がナイである（nai>nec）と述べている。ネーが頻用される兵庫丹波地域では、ナイという形式で用いられることはないが、「この形のままの「ナイ」は、兵庫県丹波域の西部、氷上郡下でも、南に下がるほどによく聞かれる」（p.68）という。さらに、次の（11）のような指摘もしている。

3) テヤ敬語とは「連用形+テ+指定助動詞」の形式で上向きの待遇をあらわす待遇表現のことである。

（例）先生が来テヤ。（先生がいらっしゃる。）

（例）先生が来チャッタ。（先生がいらっしゃった。）

(11) なお、上述の近畿と中国の接境地帯をわずかに北にたどれば、先項で触れた「ナル」の命令形、「ナイ」が行われている。が、他の一連の活用形はすでに衰退したもので、現今では存在していない。(神部 2003:365)

さらに、堀井(2006)にも福知山市方言において「ナイ」「ナン(ナーン)」「ナ(ナー)」が尊敬の助動詞ナルの命令形との記述がある。

そして、中井(2002)は尊敬の助動詞ナルの項目ではその命令形について言及せず、「ナ」を「…なさい」の意の終助詞、「ナイナ」を命令・助言・勧誘の意、「ナン」を「…しなさい」の意と、それぞれを別の項目として立てている。また、それぞれについて福知山市方言にその用法があるとしている。

### 2.3. 先行研究のまとめ

2.1～2.2 節の先行研究の記述から、福知山方言の命令表現についてわかっていることは以下のようにまとめられる。

- ・命令形(+文末詞ヤ)、連用形(+文末詞ナ・ヤ)、テ形、連用形+ナイナ、連用形+ナ、～ナハイ、という命令表現が存在する。
- ・命令性の強さの順で並べると、命令形→命令形+文末詞ヤ→連用形+文末詞ナ(～テミナの形で)→連用形+ナ→テ形、となる。
- ・尊敬の助動詞ナルの命令形として、ナレ、ナイ、ナー、ナンなどの複数の形式が存在する。

このように命令形命令、連用形命令、テ形命令、ナイナ、ナ、ナハイなど、形式のバリエーションが豊富であり、その豊富なバリエーションにさらに文末詞が共起することによって、多彩な命令表現が存在するようである。ただし、先行研究では複数の命令表現形式があげられているものの、どの形式がどの発話機能を担うのか、また、どのような対象に使用されるのかが明らかではない。本稿では、これらの記述を中心に行う。記述を行うにあたっての分析の枠組みを次の2.4 節で示す。

### 2.4. 分析の枠組み

命令表現をはじめ、行為指示表現に関連する研究は数多く存在する。しかし、それゆえに、姫野(1997:169)によると「研究者によってその扱う範囲や下位分類のし方、用いる用語が異なっており、議論が錯綜している」という。本稿では行為指示表現のうち、高木(2009)における広義の「命令表現」、つまり《命令》《依頼》《聞き手利益命令》《勧め》を扱い、「禁止表現」の《否定命令》や《否定依頼》は扱わないこととする<sup>4)</sup>。高木(2009)では行為要求表現を、拘束力の強弱、および聞き手利益という2つの分類軸を用いて、表2のように4領域に分類している。

本稿における命令表現の分類も上記の行為要求表現の分類に倣う。今回は③《勧め》を《聞

4) 命令表現を分類するにあたって、発話機能をあらかず場合は《二重山括弧》でとじてあらかず。また、特定の発話場面をあらかず場合は〈山括弧〉でとじてあらかず。

き手利益命令》とする。

表2 本稿での分類の枠組み

	非聞き手利益	聞き手利益
拘束力・強	① 《命令》	③ 《聞き手利益命令》
拘束力・弱	② 《依頼》	④ 《勧め》

高木（2009:108）によると、以上の4分類は「いずれも連続的であり、それぞれの境界は曖昧である」という。そこで、牧野（2008）や高木（2009）を参考にそれぞれの発話機能の典型的なものを（12）～（15）に例示する。

- (12) 【大事なお客さんが来ているのに大きな声で話している相手に対して】  
静かに しろ。 《命令》
- (13) 【自分はもうお腹がいっぱいなので】  
頼むから、これも食べてくれ。 《依頼》
- (14) 【気分が悪いのに無理に手伝おうとする聞き手に対して】  
いいからここにいろ。 《聞き手利益命令》
- (15) 【雨が降りそうなので】  
雨が降りそうだから、この傘を持って行け。 《勧め》

### 3. 調査・記述方法

今回は筆者<sup>5)</sup>の内省をもとに、記述を行う。ただし、用例の一部は2013年春～夏にかけて、筆者の実家などで収録した自然談話にあらわれたものを「使用例」として例示する。実際の談話における使用例を提示する際は、筆者の作例と混同しないように本文で実際の使用例という旨をその都度示す。また、実際の使用例の命令表現部分には下二重線を引く。

扱ったのは29の談話データで、それぞれ01～29の談話番号がふつてある。紙面の都合上、談話データの詳細は省くが、談話データの収録時間は15時間30分00秒、そのうち13時間10分42秒分を文字化して使用例に用いた。使用例にあらわれるインフォーマントの情報は次ページの表3の通り。なお、談話中にあらわれる「RES」は筆者のことである。

5) 筆者の生年、居住歴は以下の通り。1991年生まれ、女性。0-18：京都府福知山市、18-現在：大阪府箕面市。

表3 インフォーマント情報

ID	性別	年齢 <sup>6)</sup>	居住歴	職業等
HFM	男	63	0-20：福知山市、20-35：京都市、35-現在：福知山市	元公務員
SFF	女	51	0-19：福知山市、19-22：京都市、22-現在：福知山市	教師
NFM	男	25	0-18：福知山市、18-20：東京都調布市、 20-現在：東京都文京区	大学院生
SFM	男	22	0-18：福知山市、18-現在：島根県松江市	大学生
TFM	男	15	0-現在：福知山市	高校生
YBM	男	56	0-18：福知山市、18-22：山梨県、22-現在：福知山市	教師
TIF	女	64	0-33：福知山市、33-37：兵庫県宝塚市、43-現在：福知山市	主婦
YOF	女	85	0-18：福知山市、18-22：京都市、22-現在：福知山市	元教師・元保育士
SMF	女	80	0-33：福知山市（旧市域）、33-現在：福知山市（旧大江町域 内）	主婦（農業）

#### 4. 福知山市方言における命令表現の形態的特徴

本稿では、先行研究で行われていない各形式の発話機能と使用範囲の記述を行うが、その前に、本節では各命令表現形式の形態的特徴を記述する。

福知山市方言における命令表現は、主に動詞活用形を用いたものと、尊敬の助動詞ナルを用いたものの2つに分けられる。前者としては命令形命令、連用形命令、テ形命令があげられる。

(16) ここに名前を書ケ。 [命令形]

(17) ここに名前を書キ。 [連用形]

(18) ここに名前を書イテ。 [テ形]

そして、後者としては尊敬の助動詞ナルを由来とする文末詞「ナイナ」「ナン」「ナ」をそれぞれ用いた、「連用形+ナイナ」の形をとるナイナ形命令、「連用形+ナン」の形をとるナン形命令、「連用形+ナ」の形をとるナ形命令がある。

(19) ここに名前を書キナイナ。 [ナイナ形]

(20) ここに名前を書キナン。 [ナン形]

(21) ここに名前を書キナ。 [ナ形]

2節の先行研究から、本稿では、福知山市方言における「ナイ（ナ）」「ナン」「ナ」はすべて尊敬の助動詞ナルの命令形に由来した文末詞とした上で記述を行う。ただし、先にも述べたように、テヤ敬語が強い勢力をもつ福知山市方言において、尊敬の助動詞ナルは命令形に残るのみである。ナルが命令形にのみ残るという指摘は、(11) で挙げた神部（2003）の兵庫県内についてのものと共通する。次ページの表4に命令表現形式それぞれの活用を示す。

6) 年齢は談話収録時のもの。

表 4 京都府福知山市方言の命令表現形式

活用	動詞	命令形 命令	連用形 命令	テ形 命令	ナル系命令		
					ナイナ形	ナン形	ナ形
五段	行く	行ケ	行き (一)	行ッテ	行きナイナ	行きナン	行きナ
上一段	見る	ミロ	ミ (一)	ミテ	ミナイナ	ミナン	ミナ
	起きる	起キロ	起キ (一)	起キテ	起キナイナ	起キナン	起キナ
下一段	寝る	ネロ	ネ (一)	ネテ	ネナイナ	ネナン	ネナ
	食べる	食べロ	食べ (一)	食べテ	食べナイナ	食べナン	食べナ
サ変	する	シロ	シ (一)	シテ	シナイナ	シナン	シナ
カ変	来る	コイ	キ (一)	キテ	キナイナ	キナン	キナ

以下、6形式（活用形3形式+ナル系3形式）の形態的特徴について、順にみていく。

#### 4.1. 命令形命令

命令形命令とは動詞活用形の命令形を用いた命令表現である。福知山市方言においては、主に男性が使用する。

(22) 自分で注文したんやから、まずくても食べロヤ。

(23) 時間がないんやから、早よシロヨ。

基本的に文末詞を伴う。文末詞はヤを伴うことが多い。ヨを伴うこともある。以下の(24)～(27)は実際の談話での使用例である。

(24) [SFM (22歳・男性)の使用例]

はよ 返セヤ お前。

(25) [HFM (63歳・男性)の使用例]

「(焼酎の商品名)」は、こんだけ あったら一、あるさかいの一、明日 出セヤ。

(26) [HFM (63歳・男性)の使用例]

「(ビールの商品名)」 飲メヤ。

(27) [YBM (56歳・男性)の使用例]

オーロラ 見に行ケ、オーロラへ。

#### 4.2. 連用形命令

連用形命令とは、動詞活用形の連用形を用いた命令表現である。

(28) 好き嫌いせんと、全部食べ。

連用形が長呼されることもある。特に、動詞連用形が1モーラの場合は(30)のように長音化の方が自然である。長呼されるときとされないときの機能的な違いは感じられない。

(29) そこへはバスで {行き/行キー}。

(30) ちゃんと掃除 {?シ/シー}。



文末詞はヤとヨがつくことが多い。文末詞ヨがつくときは、連用形部分が長呼されるのが自然である。

(31) さっさと {食ベヤ／食ベーヤ}。

(32) さっさと {?食ベヨ／食ベーヨ}。

また、連用形命令に文末詞ナを伴う場合は長呼されるので、連用形部分を長呼しないナ形命令とはその点で区別することができる。また、ナ形命令（連用形＋ナ）は、さらに後ろに文末詞を伴うことができるが、連用形命令にナが伴った場合はそれ以上の文末詞が共起することはない。

(33) さっさと書キー↑ナ。<sup>7)</sup> [連用形命令＋文末詞ナ]

(34) さっさと書キー↑ナ {φ/\*ヨ/\*ヤ/\*ナ}。[連用形命令]

(35) さっさと書キナ。[ナ形命令]

(36) さっさと書キナ {φ/ヨ/ヤ/\*ナ}。[ナ形命令＋文末詞]

以下の (37) ～ (41) は実際の談話での使用例である。

(37) [SFM (22 歳・男性) の使用例]

なんとかある。「(妹の名前)」、食べ。さいごの晩餐や。

(38) [HFM (63 歳・男性) の使用例]

そこ 開けんと あかん、そこ。開ケー。

(39) [SMF (80 歳・女性) の使用例]

はよはよ、はよ おいでよー。ニュースを ミー。

(40) [HFM (63 歳・男性) の使用例]

それ 誰か エビ 食ベーヨ。

(41) [SFM (22 歳・男性) の使用例]

兄ちゃん 食イーヤ。

#### 4.3. テ形命令

テ形命令とは、動詞のテ形を用いた命令表現である。

(42) お腹いっぱいやから、わたしの分も食ベテ。

ヤ・ヨ・ナなどの文末詞がつくことがある。これらの文末詞と共起するときはテ形が長呼されるのが普通である。

(43) これも一緒に {運ンデーヤ／運ンデーヨ／運ンデーナ}。

今回記述する命令表現形式のうち、唯一文末詞ネを伴っても非文とはならないが、かなり共通語的であり、ほとんど用いられない。教育現場等の共通語が志向されるような現場、転じて(ややぶざけて)わざと聞き手に教育的立場から発言するかのようふるまう場合にのみ用いられる。

7) 「↑」はイントネーションがその直前で上昇していることをあらわす。

(44) 【幼稚園の先生が園児に向かって】

ちゃんとお家の人に渡シテネ。

以下の (45) ~ (49) は実際の談話での使用例である。

(45) [TIF (64 歳・女性) の使用例]

ちょっと 1 個 ほな 扇風機 回シテ。ぬくいんやわ、ここの 部屋は。

(46) [SFF (51 歳・女性) の使用例]

ふん、ついでに ちょっと これも、これも 持って行ッテヤ。

(47) [SFF (51 歳・女性) の使用例]

あなた 一応、教えて ええか ゆうて 確認 取ってから 教エテヤ、携帯 (の電話番号) は。

(48) [SFM (22 歳・男性) の使用例]

ちょー、「(妹の名前)」、ちょっと リアルに めっちゃ 訊イテミテ。

(49) [SFF (51 歳・女性) の使用例]

うん、早く 食ベテネ {笑}。明日までやからね。

また、談話での用例を観察すると、SFF (51 歳・女性) から以下のような「~テン」という形式が確認できた。若年層福知山市方言話者である筆者自身は使用しない形式であるが、中年層以上の女性が使用しているようである。以下の (50) ~ (52) はすべて SFF (51 歳・女性) の使用例である。

(50) 【娘に聞いてほしい話があるとき】

ちょっと「(娘の名前)」聞イテン。

(51) 【仏壇から取って来てほしいものがあるとき】

あ、ちょっと あんた 仏さんから、あの この、こんな 赤い##  
持って来テン。

(52) 【みかんジュースを娘に持って来てほしいとき】

みかんジュース「(娘の名前)」持って来テン。

#### 4.4. ナイナ形命令

ナイナ形命令は、尊敬の助動詞ナルの命令形ナレがイ音便化したナイに、さらに文末詞ナが付加して成立した文末詞ナイナを用いた命令表現である。動詞連用形に接続する。主に女性が使用する。

(53) ぐずぐずせんと、早よ食ベナイナ。

堀井 (2006) には福知山市方言においてナイが用いられるとあるが、現在の福知山市方言では「連用形+ナイナ」というように、必ず文末詞ナを伴った形で用いられる。そのため、本稿では「ナイナ」という文末詞として扱っている。「ナイナ」そのものにさらに文末詞が伴うことはない。

(54) \*早よ起キナイ。

(55) 早よ起キナイ {\*ヤ/\*ヨ/\*ネ}。

(56) 早よ起キナイナ {φ/\*ヤ/\*ヨ}。

次の(57)、(58)は実際の談話での使用例である。

(57) [SFF (51歳・女性)の使用例]

ちょっと、なんで わざわざ これで 飲むんや。普通のん 飲ミナイナ。

(58) [SFF (51歳・女性)の使用例]

へこんどるやん。触ッテミナイナ。なんか ぎゅっと 押しとるわ。

#### 4.5. ナン形命令

ナン形命令は尊敬の助動詞ナルの命令形ナレが撥音便化して成立した文末詞ナンを用いた命令表現である。動詞連用形に接続する。

(59) おいしいから、これ食べナン。

藤原(1978)には「ナーン」と長音化した形が記述されていたが、福知山市方言では普通は長呼しない。文末詞がつくことはほとんどないが、ヤを伴うことはできる。

(60) 早よ来ナン {φ/ヤ/\*ヨ/\*ナ}。

以下の(61)～(63)は実際の談話での使用例である。

(61) [SFF (51歳・女性)の使用例]

帰ってきたら 「名前」先生に 電話ぐらい シナン。

(62) [TFM (15歳・男性)の使用例]

お母ちゃんも カレー 食べテミナン。おいしいで。

(63) [YOF (85歳・女性)の使用例]

あそこに 椅子が あるで、あそこに 座ンナン、ほに。

#### 4.6. ナ形命令

ナ形命令は尊敬の助動詞ナルの命令形を由来とする文末詞ナを用いた命令表現である。動詞連用形に接続する。

(64) 好き嫌いせんと食べナ。

ナ形命令は、文末詞ヨを伴うことがある。文末詞ヤを伴うのはやや不自然だが、ナが長呼される場合は不自然さが薄れる。なお、ナが長呼されたとしても、他の文末詞が後接するときのようにナが後接することはない。ナが長呼されるのは文末詞がつく場合のみである。

(65) 好き嫌いせんと食べナヨ。

(66) 好き嫌いせんと食べナー {?ヨ/ヤ/\*ナ}。

以下の(67)、(68)は実際の談話での使用例である。

(67) [SFF (51歳・女性)の使用例]

で、うどん 入レナ。

(68) [YOF (85歳・女性)の使用例]

あんた お茶 飲ミナヨ。

### 5. 福知山市方言における命令表現形式の使用範囲

本節では、発話機能ごとにどのような形式が用いられるのかを順にみていく<sup>8)</sup>。まず、各発話機能に典型的な文脈として、牧野（2008）と高木（2009）を参考に文脈と例文を設定した。各発話機能における文脈と例文の設定は以下の表5の通り。使用範囲については筆者の内省をもとに記述を行ない、典型的な用例（作例）を例示する。そののちに、実際の談話での使用のうち、筆者がそれぞれの発話機能を持つと判断したものを使用例として示す。

表5 設定した文脈と例文

受益者	拘束力	発話機能	例文番号	文脈	例文
話し手	強	《命令》	(69)	朝、相手を起こすとき	早よ {起キロ／起キ／起キテ／起キナイナ／起キナン／起キナ}。
			(70)	大事なお客さんが来ているのに、大きな声で話している相手に対して	静かに {シロ／シ／シテ／シナイナ／シナン／シナ}。
	弱	《依頼》	(71)	字が小さくて見えにくいので	代わりに {ミロ／ミ／ミテ／ミナイナ／ミナン／ミナ}。
			(72)	自分はもうお腹がいっぱいなので	頼むからこれも {食ベロ／食ベ／食ベテ／食ベナイナ／食ベナン／食ベナ}。
聞き手	強	《聞き手利益命令》	(73)	病気の恐れがあるように見える相手に対して	何か病気にかかっているとけないから、病院に {行ケ／行キ／行ッテ／行キナイナ／行キナン／行キナ}。
			(74)	気分が悪いのに無理に手伝おうとする聞き手に対して	いいからここに {オレ／オリ／オッテ／オリナイナ／オリナン／オリナ}。
	弱	《勧め》	(75)	雨が降りそうなので	この傘を持って {行ケ／行キ／行ッテ／行キナイナ／行キナン／行キナ}。
			(76)	自分が食べたものがおいしかったので、相手にもすすめるとき	おいしから、よかったらこれも {食ベロ／食ベ／食ベテ／食ベナイナ／食ベナン／食ベナ}。

8) 4節で記述したように、形式によっては共起可能な文末詞があるが、使用範囲を記述する際は、命令表現形式単独の機能を簡潔に記述するため、文末詞が付加しない形式のみを対象とした。ただし、実際の談話での用例を例示する場合はその限りではない。

なお、記述を行う際は、牧野（2008）に沿って、話し手と聞き手の親疎関係（家族・非常に親しいソト・少し親しいソト）、および上下関係（目下・同等・目上）をもとに以下の人物を聞き手として想定した<sup>9)</sup>。

表 6 想定する聞き手

話し手 (S) と聞き手 (H) の関係	家族		非常に親しいソト		少し親しいソト	
	下位へ S>H	上位へ S<H	下位へ S>H	同等 S=H	下位へ S>H	同等 S=H
例	親→子	子→親	先輩→ 親しい後輩	親しい同じ 年齢の友人 同士	先輩→後輩	同じ年齢の 友人同士

### 5.1. 《命令》

はじめに、命令表現が《命令》として機能する場合をみていく。《命令》における各形式の使用範囲は以下の表 7 の通り。

表 7 《命令》における各形式の使用範囲

形式	家族		非常に親しいソト		少し親しいソト	
	下位へ	上位へ	下位へ	同等	下位へ	同等
	S>H	S<H	S>H	S=H	S>H	S=H
命令	○	○	○	○	×	×
連用	○	○	○	○	○	○
テ	×	×	×	×	×	×
ナル系	ナイナ	○	○	○	×	×
	ナン	×	×	×	×	×
	ナ	○	○	○	○	○

○：使用可能 ×：使用不可能 △：使用できる場合あり

《命令》では、命令形命令、連用形命令、ナイナ形命令、ナ形命令を用いる。また、命令形命令とナイナ形命令は語気が強いため、少し親しいソトには不適切になる。

(77) 【朝、相手を起こすとき】

早よ {起キロ/起キ/#起キテ/起キナイナ/#起キナン/起キナ}。

(78) 【大事なお客さんが来ているのに、大きな声で話している相手に対して】

静かに {シロ/シ/#シテ/シナイナ/#シナン/シナ}。

以下は実際の談話での使用例である。(79) は命令形命令、(80) は連用形命令、(81) はナイナ形命令、(82) はナ形命令の使用例である。

(79) [SFM (22 歳・男性) の使用例 家族 (S<H)] 《命令》 [命令形命令]

【あるアクシデントが起きて、周囲が騒がしくなるなかで】

9) 牧野（2008:60）は「目上の人には社会的慣習からそもそもこれらの命令形は使えない」ことを理由に、疎の関係の人物や目上の人物は分析対象から外しており、今回もそれに倣った。

113SFM: ちょっと うきうき してくるわ。(NFM: {笑}) 兄ちゃんも そうや  
ろ?

114NFM: ん?

→115SFM: 正直。正直 ユエヤ。

116NFM: うーん。

(80) [HFM (63歳・男性)の使用例 家族 (S>H)]《命令》[連用形命令]

【家族で夕食を食べているときの会話】

586SFF: 暑い。

587NFM: 暑いなー。急に 暑くなった。

588RES: 冷房 入れよ、冷房。

589SFF: ないわな、冷房 {笑}。

(中略)

593HFM: そこ 開けといたら ええやん。

594RES: 虫 おらんくない? あんまり。

→595HFM: そこ 開けんと あかん、そこ。 開ケー。

596RES: 開けて 大丈夫や。

(81) [SFF (51歳・女性)の使用例 家族 (S>H)]《命令》[ナイナ形命令]

【子どもたちがカレーを食べずに放置して腐らせてしまった場面】

302TFM: そういえば カレーって まだ 残っとん?

303SFF: ちょっと 残っとるけど あんた 火 入れてへんさかいに 変な  
匂いが したるで。

304RES: 絶対 腐っとるで。

305TFM: あ、腐っとん?

306RES: 絶対 腐っとるって。

307TFM: もったいないな。

308RES: カレーなんて、一晚…

→309SFF: あんたらー ちゃんと 食べナイナ! ほんまにー。

(82) [SFF (51歳・女性)の使用例 家族 (S>H)]《命令》[ナ形命令]

【家族5人で三男のクラスの集合写真を見ている場面】

052SFF: あんた、「(名前)」先生の 娘さんも おってやで。

053NFM: どれ?

054RES: えー、この人?

055SFF: 誰やいな? ちょっと どれや? 「(名前)」さん。

056RES: 「(三男の名前)」、「(名前)」さん どれ?

057HFM: 知ってへんわ、「(三男の名前)」。

058RES: だって 「あ」(から始まる名前) やから ここらへん ちゃうん?

→059SFF: あ、そうやわ。ちょ、指紋 付けんように シナヨ。えー、わからんの?

## 5.2. 《依頼》

次に、命令表現が《依頼》として機能する場合をみていく。《依頼》における各形式の使用範囲は以下の表8の通り。

表8 《依頼》における各形式の使用範囲

形式	家族		非常に親しいソト		少し親しいソト	
	下位へ	上位へ	下位へ	同等	下位へ	同等
	S>H	S<H	S>H	S=H	S>H	S=H
命令	×	×	×	×	×	×
連用	×	×	×	×	×	×
テ	○	○	○	○	○	○
ナル系	ナイナ	×	×	×	×	×
	ナン	×	×	×	×	×
	ナ	×	×	×	×	×

○：使用可能 ×：使用不可能 △：使用できる場合あり

《依頼》では、どのような聞き手に対してもテ形のみが用いられ、その他の形式は使用されない。

(83) 【字が小さくて見えにくいので】

代わりに {#ミロ/#ミ/#ミテ/#ミナイナ/#ミナン/#ミナ}。

(84) 【自分はもうお腹がいっぱいなので】

頼むからこれも {#食べロ/#食べ/#食べテ/#食べナイナ/#食べナン/#食べナ}。

以下の(85)は実際の談話での使用例である。

(85) [SFF (51歳・女性)の使用例 家族(S>H)]《依頼》[テ形命令]

【親戚の集まりの準備中に】

657SFF：氷 あるやろな？あ、

658RES：ん？しかも こっちから 来ちゃったで。(←話題とは無関係)

659SFF：うーん、こっち##。氷 あるか？

660RES：氷？

→661SFF：「(三男の名前)」、氷の水 ちょっと 入レトイテ。

662TFM：ん。

663SFF：無かったら あんた、おっちゃん 焼酎 飲めんで。

664RES：氷 あるで。

## 5.3. 《聞き手利益命令》

続いて、命令表現が《聞き手利益命令》として機能する場合をみていく。《聞き手利益命令》における各形式の使用範囲は表9の通り。

表9 《聞き手利益命令》における各形式の使用範囲

形式	家族		非常に親しいソト		少し親しいソト	
	下位へ	上位へ	下位へ	同等	下位へ	同等
	S>H	S<H	S>H	S=H	S>H	S=H
命令	○	○	○	○	○	○
連用	○	○	○	○	○	○
テ	×	×	×	×	×	×
ナル系	ナイナ	×	×	×	×	×
	ナン	×	×	×	×	×
	ナ	○	○	○	○	○

○：使用可能 ×：使用不可能 △：使用できる場合あり

《聞き手利益命令》では、命令形命令、連用形命令、ナ形命令を用いる。

(86) 【病気の恐れがあるように見える相手に対して】

何か病気にかかっているといけないから、病院に {行ケ/行き/#行ッテ/  
#行きナイナ/#行きナン/行きナ}。

(87) 【気分が悪いのに無理に手伝おうとする聞き手に対して】

いいからここに {オレ/オリ/#オッテ/#オリナイナ/#オリナン/オリナ}。

以下の(88)、(89)は実際の談話での使用例である。(88)は命令形命令、(89)はナ形命令の使用例である。典型的な《聞き手利益命令》での連用形命令の使用例はなかった。

(88) [SFM (22歳・男性)の使用例 家族(S>H)]《聞き手利益命令》[命令形命令]  
【帰宅するための交通手段について】

1067RES：あー うん、そうや。わたしが 運転しても いいけどー、たぶん、

1068SFM：いいで、普通に いいで。

1069RES：死ぬと 思う、みんな。死にたく、

1070SFM：え、マジで、免許 取ってから 1回も してんってこと？

1071RES：うん。

1072SFM：やばいな、それ。

1073RES：{笑}

1074NFM：うーん。

1075SFM：まー じゃー 1回ぐらい シトケヨ。

1076RES：うーん。

→1077SFM：知らんで。いつ 乗るか わからんのやから。

(89) [SMF (80歳・女性)の使用例 家族(S<H)]《聞き手利益命令》[ナ形命令]  
【トイレに行くと言ったものの、なかなか行こうとしないYOFに対して】

752YOF：ふん、「(地名)」みとーに あれへんで。(SMF：ふーん。)あの一 お水 持って行かんなんで。

753TIF：お水も したり##。

754SMF：もう そんなこと 任しといたら よいじゃん。はよ あんた 行っ  
て来ナ、もう。もう 出たら かなんで。



## 5.4. 《勧め》

最後に、命令表現が《勧め》として機能する場合をみていく。《勧め》における各形式の使用範囲は以下の表 10 の通り。

表 10 《勧め》における各形式の使用範囲

形式	家族		非常に親しいソト		少し親しいソト	
	下位へ	上位へ	下位へ	同等	下位へ	同等
	S>H	S<H	S>H	S=H	S>H	S=H
命令	×	×	×	×	×	×
連用	○	○	○	○	○	○
テ	×	×	×	×	×	×
ナル系	ナイナ	△	△	△	△	△
	ナン	○	○	○	○	○
	ナ	×	×	×	×	×

○：使用可能 ×：使用不可能 △：使用できる場合あり

《勧め》では、基本的に連用形命令、ナン形命令を用いる。

## (90) 【雨が降りそうなので】

この傘を持って {#行ケ/行き/#行ッテ/#行きナイナ/行きナン/  
#行きナ}。

## (91) 【自分が食べたものがおいしかったので、相手にもすすめるとき】

おいしから、よかったらこれも {#食ベロ/食べ/#食ベテ/#食ベナイナ/  
食ベナン/#食ベナ}。

以下の (92)、(93) は実際の談話での使用例である。(92) は連用形命令、(93) はナン形命令の使用例である。

## (92) [SFM (22 歳・男性) の使用例 家族 (S&lt;H)] 《勧め》 [連用形命令]

【食卓にスイカが残っている場面】

550SFF: ちょっと、その一 あれ。スイカ 食べへんのやったら こっち、回して。

551RES: 回して。

→552SFM: 兄ちゃん 食イーヤ。

## (93) [SFF (51 歳・女性) の使用例 家族 (S&gt;H)] 《勧め》 [ナン形命令]

【すき焼きを食べている場面】

613SFF: は一、お腹 いっぱいに なった。

614SFM: 「(TFM の名前)」 あんま 食ってない。

615TFM: てか この すき焼きが 甘すぎて あんま 食欲が、食欲が。

→616SFF: ほんな もう ちょっと 醤油 入レナン。

ただし、ナイナ形命令も、《勧め》のうちの限られた場面で使用されることがある。

## (94) 【遠方からわざわざ自分を訪ねてきた友人に対して】

よう来たな。まー、とりあえず（家に）上ガンナイナ。

(94) の場面では、訪ねてきた友人がその勧めを断って帰ることは考えられない。このように、断られることが想定しにくい場面での《勧め》ではナイナ形命令を用いることができる。逆に断られる可能性がある (95) のような場面ではナイナ形命令は用いられない。

(95) 【回覧板を持ってきた近所の人に対して】

まー、ちょっと（家に）{上がり/#上ガンナイナ/上がりナン}。

以下の (96) は実際の談話での使用例である。

(96) [SFF (51 歳・女性) の使用例 家族 (S>H)]

【RES がうどんを 1 本だけおかわりしている場面】

466RES : もう 1 本ずつ 食べよー。

467NFM : # # って 1 本。

→468SFF : ほな 「(三男の名前)」は、カレーライス 食べさせるさかい、{笑いながら} 食べナイナ、もう。食べたかったら。

469RES : いえーい。「(長兄の名前)」兄ちゃん 半分こずつ する? (NFM : うん。) 正直 ちょっと 足りんやんなー。

この場面では、RES がうどんをもっと食べたいことが明白であり、この場面での《勧め》を RES が断るとは考えにくい。そのため、ナイナ形命令が用いられていると考えられる。

### 5.5. 使用範囲のまとめ

以上、命令表現 6 形式の使用範囲を記述した。結果、《命令》以外では聞き手との対人関係によって使用する命令表現に異なりはなかった。そもそも、一般的に命令表現自体が使用できないと考えられる疎の関係の人物や目上の人物は分析から外しており、それ以外の分析対象であった人物にはどのような命令表現形式でもおおむね使用できるようである。よって、福知山市方言においては、対人関係よりも発話機能が命令表現形式の選択に影響するようである。以下の表 11 に発話機能と命令表現形式をまとめる。

表 11 発話機能と命令表現形式のまとめ

	命令形	連用形	テ形	ナル系命令		
				ナイナ	ナン	ナ
《命令》	△	○	×	△	×	○
《依頼》	×	×	○	×	×	×
《聞き手利益命令》	○	○	×	×	×	○
《勧め》	×	○	×	△	○	×

○ : 使用可能 × : 使用不可能 △ : 使用できる場合あり

続く 6 節では、発話機能についてさらに掘り下げるためにも、発話機能ごとの各形式の違いをみていく。

## 6. 発話機能ごとの各形式の違い

5節で発話機能ごとにどの形式が用いられるのかを記述したが、本節では同じ発話機能で用いられる形式の違いについて、それぞれみていく。本節では発話機能内での違いを説明するために発話場面を提示することがあるが、発話場面は〈山括弧〉でとじてあらかず。

### 6.1. 《命令》における各形式の違い

5.1節で記述したように、《命令》では、命令形命令、連用形命令、ナイナ形命令、ナ形命令を用いる。この4形式の違いについて考える。まず、命令形命令は男性が、ナイナ形命令は女性が主に使用するという違いがある。また、命令形命令とナイナ形命令は緊急性が高い、または、高木(2009:109-110)で述べられている「すでに実行されているべき行為がまだ実行されていないという違反を正そうとする」という〈違反矯正〉の場面で用いられることがある。そういった場面でも用いられるため、命令形命令やナイナ形命令は自然と相手への苛立ちをあらわす。また、苛立ちから転じて、高木(2009:110)で述べられている「行為が行われなかったことに対する話し手のマイナス評価を表す」という〈非難〉の場面でも用いられる。一方、《聞き手利益命令》と《勧め》でも用いられる連用形命令、《聞き手利益命令》でも用いられるナ形命令は、《命令》でもやややさしいニュアンスとなる。

(97) 【朝、相手を起こすとき】

早よ {起キロ／起キ／起キナイナ／起キナ}。

(98) 【朝、何度も起こしているのに、なかなか起きない相手に対して】

早よ {起キロ／起キナイナ}。 〈違反矯正〉

(99) 【朝、何度も起こしたものの、結局時間通りに起きられずに遅刻してしまった相手に対して】

もう少し早よ {寝ロ／寝ナイナ}。 〈非難〉

(100) は実際の談話での使用例である。

(100) [SFF (51歳・女性)の使用例 家族 (S>H)]

【《依頼》したものの、それをなかなか実行できない三男に対して】

628SFF: も一、全然 わかってへん。ちょっと「(RESの名前)」ゆっちゃって一、白いん。

629RES: お母ちゃんの 説明も 結構 わかりにくいで、正直。

630SFM: うん。

631NFM: うーん。

→632SFF: 指 さしたるとこ 見ナイナ!

この発話がなされたのは、SFFが息子にあるものを取ってほしかったが、息子が要領を得ず、SFFの思い通りにさっさと動いてくれない場面である。632SFFの発話はかなり語気が荒く、この場面では上で述べた〈違反矯正〉、そして「相手への苛立ち」をあらわしている。さらに、次の(101)では〈非難〉と「相手への苛立ち」をあらわしている。

(101) [SFF (51歳・女性)の使用例 家族 (S>H)] 《命令》[ナイナ形命令]

【子どもたちがカレーを食べずに放置して腐らせてしまった場面】

302TFM：そういえば カレーって まだ 残っとん？

303SFF：ちょっと 残っとるけど あんた 火 入れてへんさかいに 変な  
匂いが したるで。

304RES：絶対 腐っとるで。

305TFM：あ、腐っとん？

306RES：絶対 腐っとるって。

307TFM：もったいないな。

308RES：カレーなんて、一晚…

→309SFF：あんたらー ちゃんと 食ベナイナ！ほんまに一。(81) 再掲)

## 6.2. 《聞き手利益命令》における各形式の違い

5.3 節で記述したように、《聞き手利益命令》では命令形命令、連用形命令、ナ形命令が用いられる。この3形式の違いを考える。まず、命令形命令は主に男性が用いる。また、命令形命令と連用形命令は単にその行為の実行を指示しているが、ナ形命令は高木(2008)で述べられている「将来的に実行されるべき行為について念を押すかたちで指示する」(p.110)という〈確認的指示〉のニュアンスが強い。つまり、命令形命令と連用形命令はとりあえずその場面でのみ行為の実行を要求しており、対して、ナ形命令は要求する行為の実行を時間的に継続させたいような場面で用いられるという違いがある。

(102) 【気分が悪いのに無理に手伝おうとする聞き手に対して】

とりあえずここで {休メ/休ミ}。

(103) 【気分が悪いのに無理に手伝おうとする聞き手に対して】

帰って、しばらくゆっくり休ミナ。

## 6.3. 《勧め》における各形式の違い

5.4 節で記述したように、《勧め》では連用形命令、ナイナ形命令、ナン形命令が用いられる。これら3形式の違いを考える。まず、5.4 節でも述べたようにナイナ形命令は断られることが想定しにくい場面でのみ用いられる。「断られることが想定しにくい」というのは拘束力よりも、どちらかという受益者という基準がかかわってくる。《勧め》において「断られるのが想定しにくい」というのは聞き手側の利益が大きいということであらわしている。(104)は聞き手側の利益が大きく、断られることが想定しにくい場面での用例である。

(104) 【遠方からわざわざ自分を訪ねてきた友人に対して】

よう来たな。まー、とりあえず(家に)上ガンナイナ。(94) 再掲)

そして、連用形命令とナン形命令を比べてみると、連用形命令の方が用いられるときの方が緊急性が高い。(105)と(106)を比べると、今にも雨が降りそうな(105)の場面の方が「傘を持っていく」という行為実行の緊急性が高く、したがって連用形命令が使用され、ナンは使用されない

(105) 【今にも雨が降りそうなので】

この傘を持って行き。

- (106) 【空を見る限り雨が降りそうにないが、天気予報は昼から雨だったので】  
念のため、この傘を持って行キナン。

## 7. まとめ

本稿では、福知山市方言における動詞活用形を用いた命令表現について、発話機能ごとに記述を行った。本稿で述べたことは以下の通り。

- (a) 命令表現として主に、命令形命令、連用形命令、テ形命令、ナル系命令（ナイナ形命令、ナン形命令、ナ形命令）が用いられる。
- (b) 《命令》の発話機能においては、命令形命令、連用形命令、ナイナ形命令、ナ形命令が用いられる。命令形命令、ナイナ形命令は緊急性が高い場合、または、〈違反矯正〉や〈非難〉の場面で用いられる。連用形命令とナ形命令はやややさしいニュアンスとなる。
- (c) 《依頼》の発話機能においては、もっぱらテ形命令が用いられる。
- (d) 《聞き手利益命令》の発話機能においては、命令形命令、連用形命令、ナ形命令が用いられる。命令形命令と連用形命令は単にその行為の実行を要求しているが、ナ形命令が用いられる場面は〈確認的指示〉のニュアンスが強い。
- (e) 《勧め》の発話機能においては、連用形命令、ナイナ形命令、ナン形命令が用いられる。ナイナ形命令は特に《勧め》が断られることが考えにくい場面で用いられる。また、連用形命令とナン形命令が用いられる場面を比べると、連用形命令の方が《勧め》のうちでは緊急性が高い。

## 【参考文献】

- 奥村三雄(1962)「京都府方言」榎垣実編『近畿方言の総合的研究』三省堂(井上史雄ほか編(1996)『日本列島方言叢書⑩ 近畿方言考③ 滋賀県・京都府』ゆまに書房, pp.75-120 に再録。本稿における引用ページは再録版のものである)。
- 神部宏泰(2003)『近畿西部方言の生活語学的研究』和泉書院。
- 京都府教育委員会(1987)『京都府の方言—京都府方言収集緊急調査報告書一』。
- 高木千恵(2009)「命令表現」国立国語研究所全国方言調査委員会編『方言文法調査ガイドブック 3』pp.105-129, 国立国語研究所。
- 中井幸比古(2002)『京都府方言辞典』和泉書院。
- 姫野伴子(1997)「行為指示型発話行為の機能と形式」『埼玉大学紀要』33-1, pp.169-178, 埼玉大学教養学部。
- 藤原与一(1978)『方言敬語法の研究』春陽堂。
- 堀井令以知(2006)『京都府ことば辞典』おうふう。